



八戸工業大学第一高等学校

— ネットブート方式による既存PCの利用 —

1. OSP事業に参加した経緯

本校では、OSSを基本としたUNIX 技術の習得を目標としている。従来 Cd起動で実習を行ってきたが、そのカナ漢字変換のスピードに限界がある。そこでネットワーク上から起動して実習を展開したいと考えた。これを実現するだけの技術力がないため企業のサポートを期待し、OSP 事業に参加した。



クライアント
CPU: Celeron 950MHz
HDD: IDE 20GB
mem: 384MB
NIC: RTL8139(On Board)



ネットブートサーバー
CPU: AMD Athlon 1.4GHz
HDD: IDE 60GB (RAIDなし)
mem: 1GB
NIC: Intel PRO/1000MT Server adapter

2. 実践内容

一年生(進学科・情報コース)132名が対象。工業技術基礎(3単位)で実施。

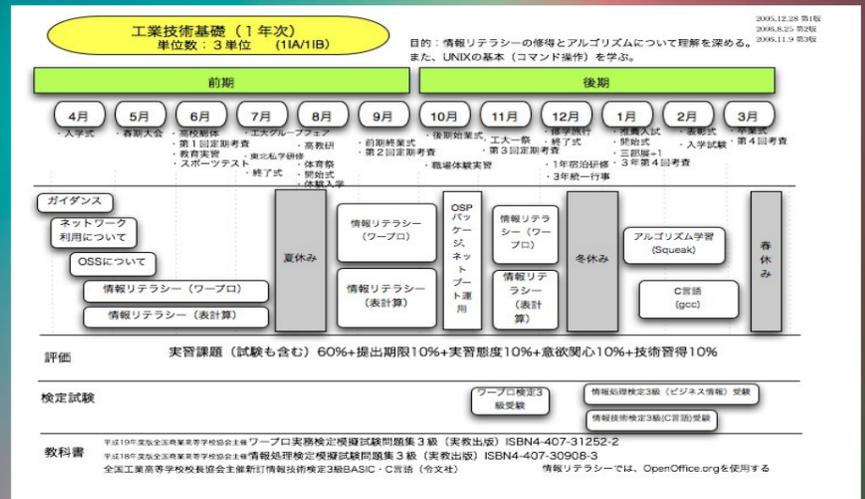
(1)大学の廃棄処分PCをネットブート起動
- 情報リテラシー学習

ワープロ: Writer, 表計算: Calc

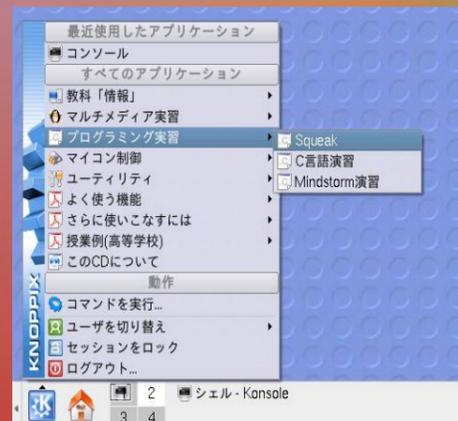
(2)OSP基本パッケージへのSqueak組み込み
- アルゴリズム学習

3. OSP事業参加における成果

- (1)予算ゼロでの実習室整備
 - ネットブート化
 - 35台を3分15秒で起動
 - Squeak実習(OSP基本パッケージCD版)
- (2)「生徒の研究発表会」で発表
 - KNOPPIXのカスタマイズ
 - 優秀賞(2位)
- (3)ワープロ実務検定3級
 - 希望者28名中25名合格



授業計画(概要)



Squeakの組み込み



生徒の研究発表会

4. OSP事業に参加した感想

本校は数年前から実習でOSSを導入している。LinuxにおいてもWindowsと同様の使い勝手になった。しかし、ドライバのインストールやネットブートサーバへのイメージの組み込みなど素人が使うには、まだ敷居が高い。これが解決できれば、OSSの普及に拍車をかけられると思われる。このプロジェクトに参加したことにより、たくさんの方と面識を持てたことは、私にとっても学校にとっても大きな成果であり、財産であると思う。



授業の様子